

新たな外来種への対応状況（外来アリ等）

1. 母島におけるツヤオオズアリの分布確認と防除



図：母島におけるツヤオオズアリ分布

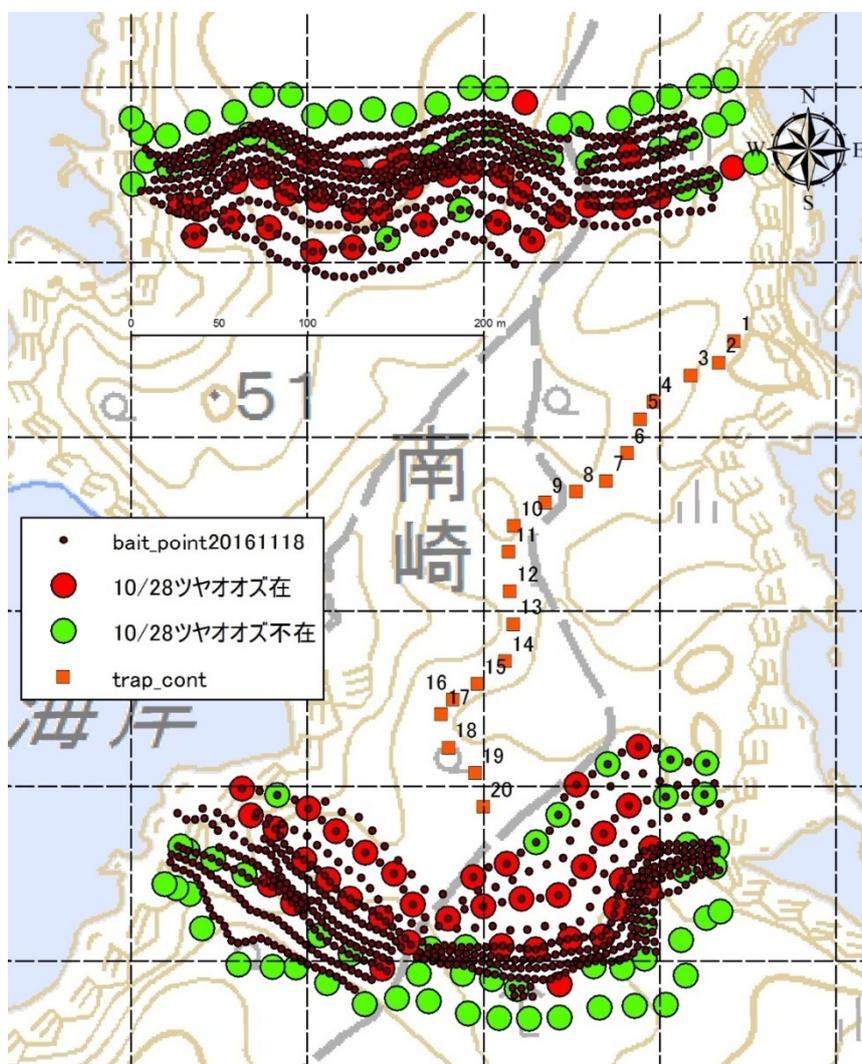
1. 1) 南崎における防除

ベイト設置状況：4/10 から 12 月末までの間に、計 23 回ベイト剤を設置（9 日～35 日の間隔、8 月以降は月 3 回を保持）。

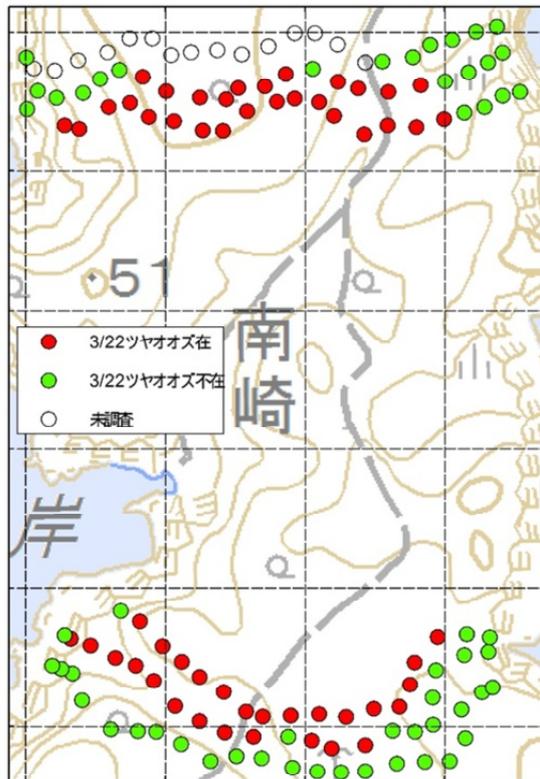
ベイト設置箇所：9 月からは、内側にベイト設置箇所を増設。

今年度のベイト設置：12 月末まで月 3 回を継続し、2 月下旬に 1 回、3 月中に 1 回で今年度は終了。来年度は 4 月開始予定。

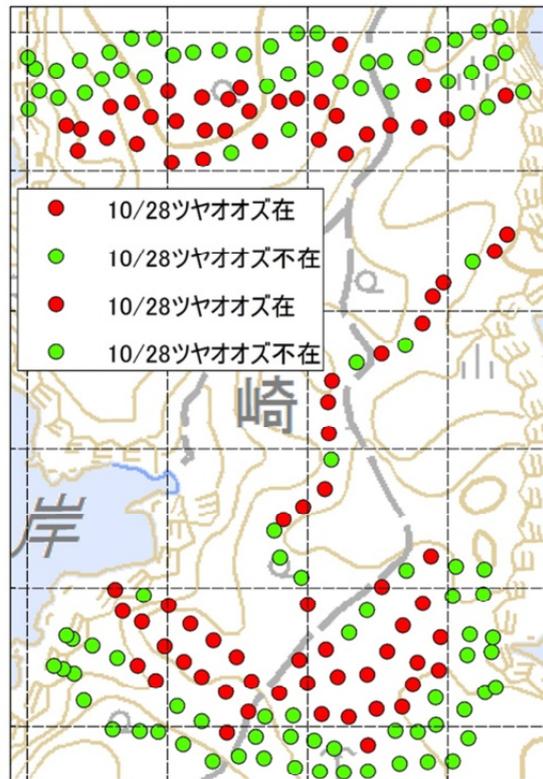
モニタリング結果：3/22 から月 1 回、トラップでツヤオオズアリ等の補足個体数を記録。ベイト設置箇所を 9 月から内側に増設し、それに伴いトラップ箇所も増設。局所的根絶などの傾向はみられてはいない。



図：平成 28 年 10 月 28 日のモニタリング結果



防除開始前3/22



10/28

1. 2) 北港における防除

ツヤオオズアリ対策事後モニタリング調査(北港) 平成28年12月22日 東京都小笠原支庁

■ 調査概要

▶ 調査概要
平成27年10～12月に実施した北港でのペイト剤を用いたツヤオオズアリ駆除作業の効果を確認するために事後モニタリング調査を実施

▶ 調査時期
平成28年7月～(現在 7回実施)

▶ 調査内容
ポテトチップを用いた粘着トラップを活用



■ 調査結果 (第7回まで: ~平成28年11月16日)

- ・ 環境省職員及び都庁リサーチによる同定
- ・ これまで15種類のアリを確認
- ・ 現在、**ツヤオオズアリの確認はなし**
(平成28年6月にM17～18間の歩道付近での目視情報あり)

【確認されたアリ(15種類)】
 アダカアリ、アミメアリ、アワテコヌカアリ、イエヒメアリ、イカリゲシワアリ、オオシワアリ、オオハリアリ、クロヒメアリ、シワアリ類、ナンヨウテンコクオオズアリ、ハダカアリ、ヒゲナガアメイロアリ、フタイロヒメアリ、ミナミオオズアリ、ルリアリ、ナンヨウシワアリ

調査結果等を踏まえた今後の対応案

▶ 北港周辺を一定期間ごとにモニタリング：駆除実施エリアの定点観測

▶ 既調査部周辺の調査：周辺への避難的拡散が起きていないか確認

■ 調査位置図

1・3) 乳房山における防除

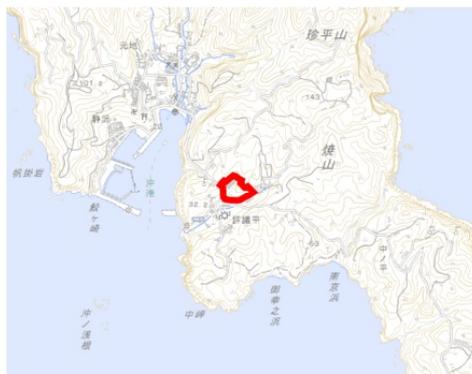
平成 28 年 3 月からベイト剤を設置し、初期は一週間に一度のペースで、その後消費量に合わせて二週間に一度のペースで交換した。

また、月に一度のモニタリングを 3 月から 7 月まで行ったところ、5 月を最後にツヤオオズアリは確認できなくなった。その後、10 月のモニタリングでも確認されず、今後は平成 29 年 4 月のモニタリングを実施して根絶を確認したい。

2. アジアベッコウマイマイの分布確認と防除

平成 28 年 10 月下旬に、東北大の研究者らにより、母島評議平の 1-2ha ぐらいの範囲において、ベッコウマイマイ科のアジアベッコウマイマイという肉食性外来陸産貝類が発見された。本種は近年、沖縄他で確認され、固有陸産貝類との競合が懸念される。

12 月中に侵入範囲の詳細調査を行い、小笠原環境計画研究所により、環境省業務の中で、ナメクジ類の防除剤により対処予定である。



3. オガサワラリクヒモムシによる土壌動物への影響

平成 28 年 9 月に、東北大の研究者らにより、紐型動物門に属する外来種オガサワラリクヒモムシが土壌動物に及ぼす影響について推察した中間報告が事務局宛てに提出され、委員に共有された。母島南崎における本種の分布調査と捕食実験の結果から、オガサワラリクヒモムシは少なくとも等脚類と端脚類の激減の大きな要因のひとつとなっていることが推定された。まだ分布していない地域や属島への侵入を防ぐ必要があり、ウズムシと同様の対策が有効であると考えられる。



樹上でヨコバイを襲うオガサワラリクヒモムシ